

放送博物館

—放送のふるさと・愛宕山を訪ねて—

● 最 上 勝 也

東京港区の地下鉄「神谷町」から歩いて10分ほどのところに、放送博物館がある。

2棟の高層の愛宕森タワーの谷間の、小高い丘に立つ瀟洒な4階建ての建物である。都心とは思えない静寂な環境にあり、隣接して、桜と薪能で有名な「愛宕神社」がある。

1925年（大正14年）3月22日朝9時30分、ここから（東京芝浦の東京放送局仮放送所）から、日本のラジオ第一声が流れた。アナウンサーはJOAKを「ジェーイ、オーウ、エーイ、ケーイ」と遠くに呼びかけるように読み上げた。

ラジオ放送開始の日、聴取契約を結んでいた人は3500人、鉱石ラジオが主流で、レシーバーを耳に押し当てて放送を聞いた。鉱石ラジオは15円、真空管のラジオは100円から200円もした。当時、学校の先生の初任給が平均25円であったので、ラジオを聴くことができたのはごく一部の人たちだった。

その時から今年で83年経つ。その間、放送の進展は目覚しく、ラジオからテレビへ、そして、テレビの白黒からカラーへ、衛星放送とハイビジョン、多チャンネル化、いよいよ2011年からは本格的なデジタル放送時代を迎える。

放送の歴史は、一面では、技術の進展の歴史ともいえる。博物館の1～3階には、ラジオ放送の開始から「玉音放送」による終戦までの放送機器と文献などの展示を始め、テレビ時代初期からデジタル・ハイビジョン時代に至るカメラやマイク、VTR、ENGなど番組作りに画期的な変化をもたらした機器などが、時代順に展示されている。

博物館には、単に見るだけでなく、各種体験型コーナーも設置されている。

2階の「放送体験スタジオ」では、実物の放送機器を使ってキャスターやカメラマンの体験ができるほか、放送で使っているお天気カメラを操作して東京のパノラマ映像を楽しむことができる。

3階の「データコーナー」は、パソコンやタッチパネルで全国各地の方言が聞ける「ふるさと日本のことば」や「博物館収蔵品」の検索、さらに「国語力テスト」や

「アクセント辞典」（あなたのアクセントが正しいかどうかのチェック）を体験的に楽しむことができるコーナーである。

卒業研究やゼミ演習で、放送の歴史をテーマにしたいという人には、4階にある「放送ライブラリー」が資料の宝庫である。放送に関する図書や放送文化研究所の刊行物、昔の放送番組表などを見ることができる。同じく4階にある「番組公開ライブラリー」では、NHKがこれまで放送してきた「大河ドラマ」「紅白歌合戦」「NHK特集」などの番組約6000本が埼玉県川口市のNHKアーカイブスと専用のプロードバンドで結ばれたブースで見ることができる。

- ・開館／午前9時30分～午後4時30分
- ・休館／月曜日・年末年始
- ・入場／無料
- ・交通案内／日比谷線「神谷駅」、銀座線「虎ノ門駅」（いずれも歩いて10分以内）